



中国における出身地の違いが市場取引に与える影響：相対交渉実験による検証

神戸大学 経済経営研究所

教授 瀧 俊毅

今回、中国において市場取引実験を行い、被験者の出身地の違いが、財交換における交渉力に与える効果を考察する¹。国が同じ人間の経営哲学や市場行動の違いを理解するのに、出身地の違いは従来重要な役割を果たしてきた。それにもかかわらず、実験参加者の出身地の相違が市場取引に与える影響を分析した実験研究はほとんどない。特に、中国においては、異なる出身地の人々よりも、同じ出身地の人々とのほうが、容易に緊密なコネクションを持つことが知られている。たとえば、Tsang (1998)によると、中国においては、親族関係、学校、職場、出身地のいずれかで共通点があることが、政治・経済・文化などほとんどすべての事柄について、密接で良好な「関係 (*guanxi*)」を形成するために必要不可欠であるという。

ここでは、市場取引実験において、まず、チームによる取引と個人による取引の間に違いがあるか否かを考察する。さらに、出身地の違いが、財交換における交渉力に与える影響を明らかにする。

中国においては、沿岸地域と内陸地域とでは現段階において経済発展に明白な格差があることから、実験では、まず被験者を沿岸地域出身者と内陸地域出身者の2つのカテゴリーに分類した。次に、市場取引実験において沿岸地域出身者だけによる個人同士の取引と2人1組で形成されるチーム同士の取引の違いと、内陸地域出身者だけによる個人同士の取引と2人1組で形成されるチーム同士の取引の違いを観察した。そして、沿岸地域出身者と内陸地域出身者による個人同士の取引と沿岸地域出身者2人1組と内陸地域出身者2人1組で形成されるチーム同士の取引の違いを考察した。

この市場取引実験では、2種類の商品 $\{X, Y\}$ のみが存在し2つのタイプ $\{1, 2\}$ 消費者がそれぞれ同数からなる交換経済の理論モデルを検証する。この理論モデルでは、 Y の価格を基準として1と固定し、 X の価格 (相対価格) を変数と考える。 X の価格が与えられたとき (Y の価格はつねに1で与えられる)、その時点でひとりの消費者の X と Y の初期保有量の価値の合計額は所得 (income) と呼ばれる。このモデルは、交換経済において消費者の商品 X, Y のそれぞれの需要と供給が一致する競争均衡 (competitive equilibrium) が3つ存在し、 X の均衡価格が「高い均衡」、「中間の均衡」、そして「低い均衡」に分けられる。これらの均衡の特性は資源配分の「公平性」と「ワルラス的安定性」の観点から大きく異なる。

まず公平性について考える。消費者間の資源配分が公平 (fair) であるとは、その配分がパレート効率的 (Pareto efficient) で、かつどの消費者も他の消費者の消費ベクトル

¹ 今回のコラムの内容は瀧・下村・大和 (2015) 及び Qin et al. (2013) に基づいている。

との交換によって利得を上げることができない無羨望 (envy-free) の状態であることを指す。競争均衡における資源配分が必ずパレート効率的であることは「厚生経済学の基本定理」として知られている。したがって、公平性を満たさない競争均衡の配分とは無羨望の状態にないことを意味する。またここでは、公平な配分からかけ離れているものに対しては「格差が生じている」、公平な配分に十分近いものに対しては「ほとんど公平である」と表現する。この観点から見れば、 X の均衡価格が低い均衡では、 Y をより多く所有しているタイプ2の消費者の所得が高いという意味で有利となるが、 X の均衡価格が高い均衡では、 X をより多く持っているタイプ1の消費者が有利になり、これら2つの均衡ではタイプ間に格差が生じている。これに対して X の均衡価格が中間の均衡では、両方のタイプの消費者の所得の差は少なく、配分はほとんど公平である。

次に、ワルラス的安定性 (Walrasian stability) について考える。ワルラス的調整過程 (Walrasian adjustment process) とは、「価格の自動調節機能」とも言われ、 X の与えられた価格のもとで、 X の超過需要が生じている場合には X の価格が上昇し、超過供給が生じている場合には X の価格が下落する働きを表す。このワルラスの調整過程を連立常微分方程式で定式化すると、中間の均衡ではその均衡価格以外のどのような価格を近くに与えられてもそこから遠ざかってしまい、他の2つの均衡は価格をそれぞれの十分近くに与えるとその価格に限りなく近づくことが導かれる。このとき中間の均衡は局所に不安定 (locally unstable)、他の2つの均衡は局所的に安定 (locally stable) と言われる。このことは、価格の自動調節機能はパレート効率的であるが格差が生じている配分に経済を導くことを意味している。

以上の市場取引実験においては、以下のことを観察した。初期の段階では、取引価格がいくらか変動したものの、取引回数が増えるにつれて、ほとんどの取引価格は低い均衡価格と中間の均衡価格の間に位置し、高い均衡価格には到達しなかった。さらに、異なる地域出身の被験者間で財交換が行われたとき、取引のグループサイズが1人から2人へ増加することによって、沿岸地域出身の被験者の交渉力は強まるのに対して、内陸出身の被験者の交渉力は弱まった。このように取引方式 (個人かチームワークか) が被験者の出身地によって異なる方向で影響することがわかった。このような観察結果は、個人間とチーム間の経済的行動や意思決定を比較するとき、出身地を考慮に入れることの重要性を示していると言えよう。

参考文献

Qin, X., Shen, J., Shimomura, K.-I., and Yamato, T., (2013). Hometown-specific bargaining power in an experimental market in China. Discussion paper Series 2013-28, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University.
潘俊毅・下村研一・大和毅彦. 「出身地の違いが市場取引に与える影響—中国における相対交渉実験による検証」『社会関係資本の機能と創出：効率的な組織と社会』清水和巳・磯部剛彦編著 西條辰義監修 第6章 105頁-126頁 勁草書房 2015年